

## 活動状況報告（12月）

学生留学コース 5期生 上野 瞭子

フランス・レンヌは、北海道よりも北に位置しているにもかかわらず、雪も降らず、日中は10度代と暖かい冬を過ごしています。

1学期の講義や期末試験が無事に終わりました。今回は、2学期が始まるまでのバカンス中の活動について報告します。12月は、フランスのストラスブールへ、また、フランスから出てベルギーとイギリスへ行きました。

日本では、島国であるせいか、他国へ行くことは大掛かりなイメージがありますが、フランスには、シェンゲン協定により、出入国審査等なく行き来することができる国が多くあります。また、交通手段も安価な電車やバスがあるため、気兼ねなく他国へ渡ることが可能です。この経験から、今までの海外へ行くイメージが払拭され、「外国」に対する距離感が近くなったように思います。

さて、この経験の中で、特に興味深かったのは、アンダーソン・毛利・友常事務所のロンドンオフィスに在籍している日本人弁護士と対談させていただいたことです。

私の目標は日仏間取引に関わる弁護士であり、今回お話をさせていただいた弁護士は、オフィスがロンドンにあるもののヨーロッパ全体を代表しています。また、フランス企業との取引に特化した弁護士を目指すためには、フランスという狭い視野で物事を見るのではなく、ヨーロッパ全体からフランスの特徴を知る必要があると考えました。

このような理由から直接お話を伺えないかお願いしたところ、快く迎えてくださりました。

対談では、イギリスを含む、ヨーロッパでの業務や日本人弁護士の活躍などの話を聞くことができ、充実した時間を過ごすことができました。そして、今後の目標やすべきことがより明確になりました。

また、12月のヨーロッパでは、クリスマスに関する催しが多く、特にイルミネーションやクリスマスマーケットが特徴的です。クリスマスマーケットといえばドイツが有名ですが、そのドイツに隣接するストラスブールでも、クリスマスマーケットが盛大に開催されています。

12月は、ヨーロッパの文化に触れることができた1ヶ月間でした。また、1学期が終わり、帰国する留学生もいたため、別れの月でもありました。少し寂しいですが、この思い出を大切にしつつ、2学期の新しい出会いにも期待したいと思います。

